

【テーマ】「大学図書館におけるDX」

【主催】図書館分科会

活動報告

日時：2021年7月20日（火）15:00 -17:00

場所：オンライン分科会

出席者：137名

1. 研究内容

図書館分科会では、「大学図書館におけるDX」をテーマとして今年度第1回目となるオンライン分科会を開催しました。

当日は青山学院大学の野末先生をお招きし、「大学図書館におけるDX “AI 時代”に向けてできること」と題したご講演をいただきました。

後半においては、分科会企画メンバー（神田外語大学、共立女子大学と龍谷大学）より、DXに関する取組み事例などの紹介がありました。その後は、野末先生にもご参加いただき、パネルディスカッション形式にて参加者皆様と意見交換を行いました。

2. スケジュール

15:00 分科会開始

ご講演「大学図書館におけるDX “AI 時代”に向けてできること」

野末 俊比古 様（青山学院大学教育人間科学部教授・図書館長・
アカデミックライティングセンター長・前シンギュラリティ研究所
共同所長）

事例紹介（神田外語大学）「大学図書館におけるDX」 神田外語大学では...

事例紹介（共立女子大学）「大学図書館におけるDX」

事例紹介（龍谷大学）「大学図書館におけるDX」

<意見交換>

パネルディスカッション（パネラーは野末先生と事例を紹介いただいた企画メンバー3名）形式にて当日のご講演に関する質疑応答や事前アンケート回答を題材として参加者皆さんとの意見交換を行いました。

17:00 分科会終了

【ご参考】

2項スケジュールに記載の事前アンケート回答結果は「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載いたします。詳細については、次頁【事務局より】を参照願います。

3. 参加校 [39校83名] ・参加企業[6社54名] ・参加総数[137名]

愛知大学[1]
愛知学院大学[1]
愛知工業大学[1]
青山学院大学[1]
追手門学院大学[1]
桜美林大学[2]
鹿児島大学[1]
学校法人常翔学園[1]
神奈川工科大学[1]
神奈川大学[2]
関西国際大学[3]
神田外語大学[2]
関東学院大学[4]
共立女子大学[5]
工学院大学[1]
神戸学院大学[1]

神戸大学[1]
国土館大学[1]
産業能率大学[1]
芝浦工業大学[2]
順天堂大学[1]
成蹊大学[1]
専修大学[3]
千葉大学[2]
中央大学[2]
中部大学[2]
津田塾大学[2]
帝京大学[3]
東京都市大学[1]
名古屋大学[5]
新潟工科大学[2]
広島大学[1]

福岡女学院大学[1]
横浜国立大学[2]
立命館大学[13]
立教大学[1]
立正大学[1]
龍谷大学[6]
早稲田大学[1]

株式会社日本経済社[3]
株式会社富士通総研 [1]
東京コンピュータサービス株式会社[4]
東通産業株式会社[2]
富士電機ITソリューション株式会社[2]
富士通Japan株式会社[42]

4. 所感（図書館分科会運営委員会）

昨今、世の中でも、大学業界でも話題になることが多い「DX」を取り上げてみました。

とはいえ、大学図書館としてDXをどのようにとらえればよいのか、何をすればよいのかなど、まだまだ方向性の定まらない状況かと思えます。今回は青山学院大学の野末先生に実際の研究の一部をご紹介いただきながら、AIとの関わり方を始めとした大学図書館あるいは図書館職員のDXについて大変わかりやすくご示唆いただけました。

また、事例紹介は運営委員の所属大学図書館のものでしたが、今後は今回ご参加いただいた皆様からの事例をご紹介できる機会を設けられればと考えております。

多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。

【パネルディスカッションの様子】



【事務局より】

次頁以降に開催後アンケート結果（抜粋版）を記載しています。

開催後のアンケート結果について、詳細版をご覧になりたい方は、「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

また、今回の分科会開催に際し、事前アンケートを行っています。事前アンケート結果につきましても、「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しております。

「CS研・IS研情報交換サイト」について

○CS研・IS研の会員向けに情報・資料をご提供し、会員の皆様で情報交換をするサイトです。

URL : <https://www-std01.ufinity.jp/csisken/>

○情報交換サイトをご覧になるにはIDとパスワードが必要となります。お持ちでない場合は以下のサイトにてお申込みください。

お申込みサイト : <https://seminar.jp.fujitsu.com/public/seminar/view/46757>

【ご参考（詳細版の開催後アンケートでは次頁以降記載項目とともに以下のような項目の回答結果をご覧いただけます）

○チャットボットの導入にかけられる予算

○働き方改革についてベンダーに期待すること

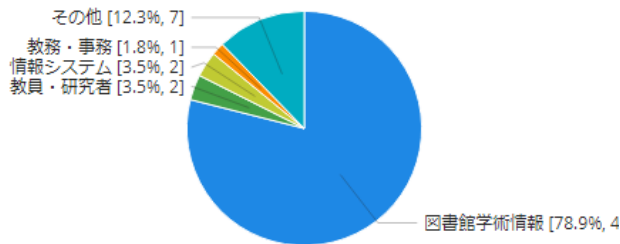
【連絡先】

私立大学キャンパスシステム研究会 事務局
〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
富士通Japan株式会社 デマンド創出・カスタマリレーション部内
E-mail : fj-csken-secretary@dl.jp.fujitsu.com

開催後アンケート結果

■ 担当業務を教えてください

担当業務 57件の回答

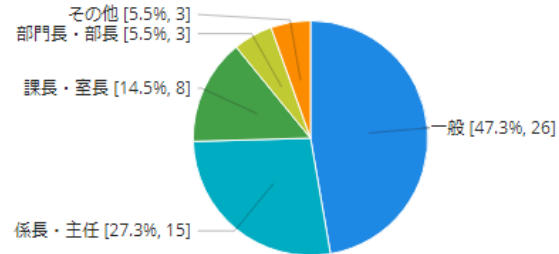


その他の回答
・図書館参考調査カウンタースタッフ

■ 図書館学術情報 ■ 教員・研究者 ■ 情報システム ■ 教務・事務 ■ その他

■ 役職について教えてください

役職 55件の回答

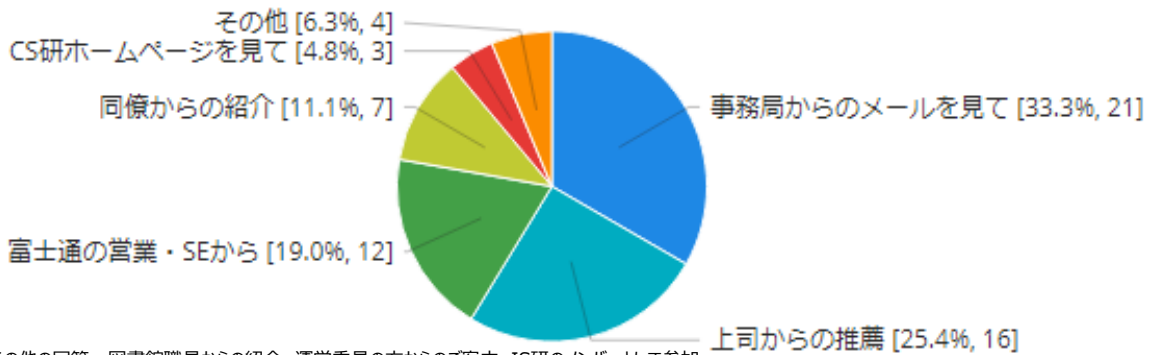


その他の回答
・課長補佐 ・業務委託 ・主幹

■ 一般 ■ 係長・主任 ■ 課長・室長 ■ 部門長・部長 ■ その他

■ 参加しようと思ったきっかけを教えてください

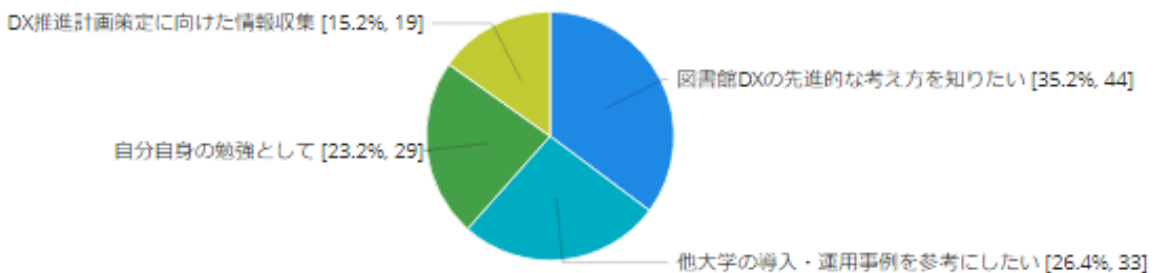
参加のきっかけ 55件の回答



その他の回答：図書館職員からの紹介、運営委員会の方からのご案内、IS研のメンバーとして参加

■ 参加した目的を教えてください

参加の目的 55件の回答

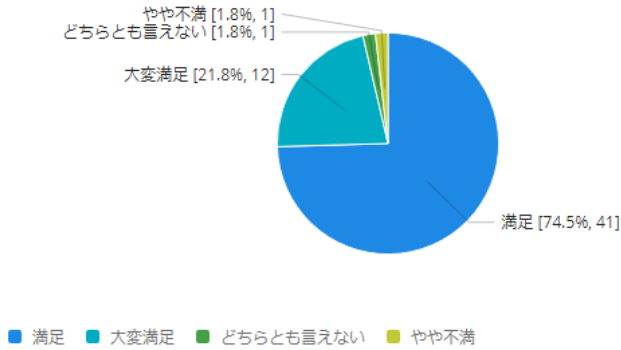


■ 図書館DXの先進的な考え方を知りたい ■ 他大学の導入・運用事例を参考にしたい ■ 自分自身の勉強として

■ DX推進計画策定に向けた情報収集

■ 本日の分科会の全体満足度

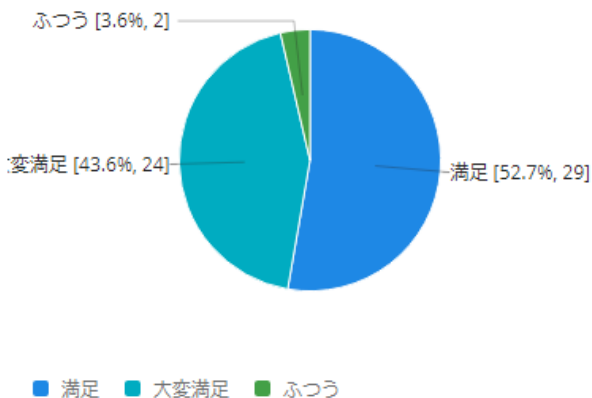
全体の満足度 55件の回答



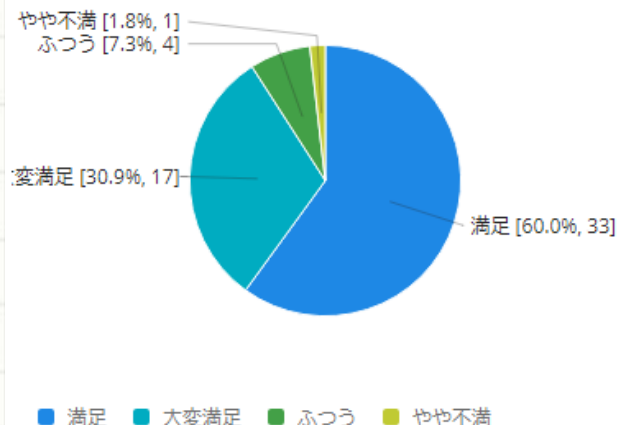
■ 全体満足度の評価理由

- ✓ 私立大学でのDXの事例を具体的に知ることができたので。
- ✓ 野末先生の話し方が上手でこちらも興味の湧く話し方だったのが良かった。他大学ではもう既にDXについて色々考え取り組んでいることが分かったのも良かった。
- ✓ DXについての具体的な取り組みを知ることができてとても勉強になりました。
- ✓ 過渡期にあり、試行錯誤されている様子がよくわかったため。
- ✓ 全体としては非常に勉強になりました。「大変満足」にしていけないのは、事前アンケートの回答結果にも興味があったが、限られた回答のみであったため。(スケジュールを失念して回答し忘れた者が言うことではないのですが)
- ✓ 野末先生の講演を聞くことができた。パネルでディスカッションを通じて、自大学でのアクションイメージが少し掴めた。
- ✓ DXとは何か、図書館DXについて具体的な例を知りたかった。今回の分科会に参加したことで、なんとなく理解できたように思う。今回得ることができた知見をもって、自身の図書館でDXと呼べるようなデータやコンテンツの活用を考えることができそうである。
- ✓ 実際にDXについて研究されている先生のお話と他大学の活動事例を聞くことができたから。
- ✓ 大学図書館にとってのDXがどのようなものであるか、その概要を知ることができた。
- ✓ 現在の大学図書館におけるDXの状況、各大学図書館の考えているイメージがわかったこと。DXと言っても個々の取り組みの積み重ねが重要であること、などが理解できただけでもありがたい。
- ✓ 野末先生およびパネラーの方のお話は興味深く、時間が足りないのが残念でした。可能であれば、事前アンケートおよび事後アンケートも共有いただけると嬉しいです。
- ✓ DXにピンときていないところがありましたので、認識を共有したり実践事例を紹介していただける機会を提供して下さるのはありがたいです。"現状"を知ることができたのは良かったです。
- ✓ 図書館DXに関する様々なヒントが得られた為
- ✓ 事前アンケートの問9は考えがまとまらず、空白で出しました。DX出来ているのでは？ということがパネリストの方々の発表を聞き 難しく考えすぎていたと気づかされました。野末先生のお話も大変面白かったです。
- ✓ 大学図書館におけるDXをどう認識すれば適切か、野末先生の講演でイメージできた。また具体的な他大学の事例について、パネリストの方々のお話を伺って非常に参考になった。
- ✓ 大学図書館という界限で、DXというものがどう捉えられているのか、今現在どこまで進んでいるのか、事例としてどのようなものがあるのか、知りたいと思って参加しました。今回のイベントでこれらがすべて満たされたからです。

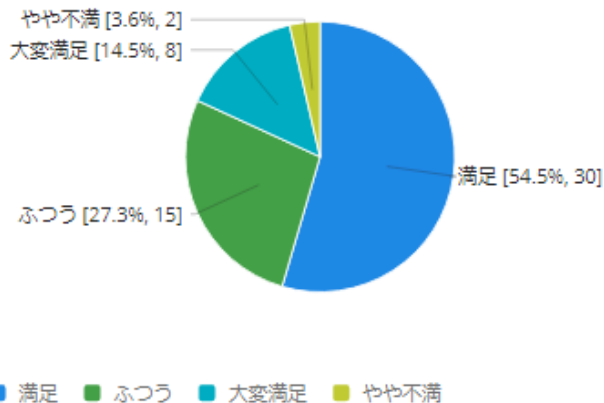
■ 講演の満足度



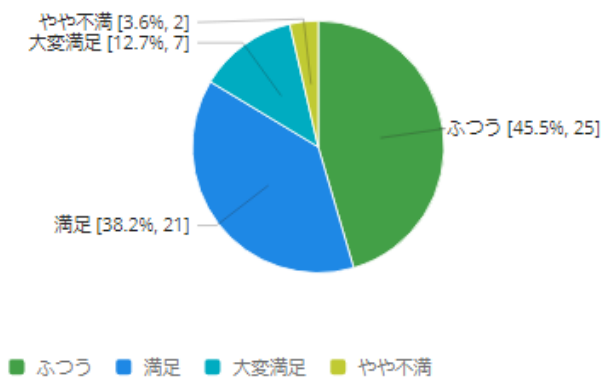
■ 事例紹介の満足度



■意見交換の満足度

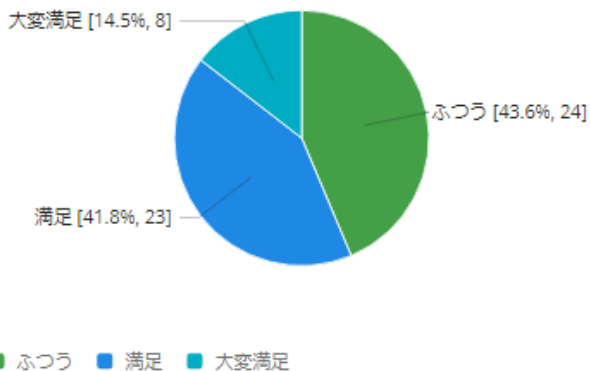


■時間配分の満足度



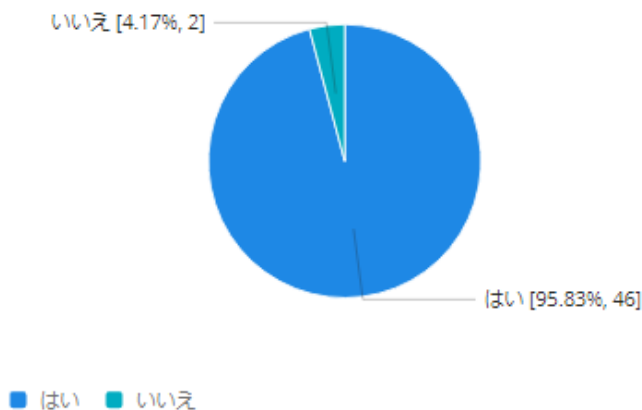
■当日運営の満足度

満足度（当日運営） 55件の回答



■次回参加希望

次回参加希望 48件の回答



■次回以降取り上げて欲しいテーマ

- ✓ 未来の大学図書館 大学図書館のあるべき姿 など
- ✓ レファレンスに於ける、図書館システムの活用方法
- ✓ 貴重書デジタル画像のIIIF対応（具体的に何をしたらよいか）、クラウドファンディングを活用した図書館事業（具体的に何をしたらよいか）
- ✓ 学生協働の取り組みや学習支援サービスについて
- ✓ 大学等におけるDX教育の実務面の取組等について
- ✓ 学生教職員の個人情報の取り扱いとDXに関して、いろいろとお話を聞きたいです。どうしても個人情報の観点ということで、企画が没になることが多々あり、どう打開すべきか悩んでおります。
- ✓ コロナで図書館が行う利用者ガイダンスが動画化されましたが、リモート会議同様に必要にこれまでも技術はあったものしてはいたが、必要に迫られて行ったら思いのほか効果があったので、コロナが収束してもやめない、、、というサービスはあると思います。いろんな大学で試行錯誤しながら実施しているものについて、どのようなものがあるか、どのようなツールを用いているか等の事例を取り上げてほしいです。

■CS研についてのご意見・ご要望

- ✓ 事例報告を増やして欲しい（大学規模関係なく）
- ✓ OOM形式はとても参加しやすい。コロナ禍が終わった後も、リアルとZOOMどちらでも参加が出来るようにして欲しい。富士通側司会者の音声の明瞭度が低く聞き取りづらいところがありました。また回線の遅延もあつたようです。聞き取りやすい音声（マイクの変更）と、安定した回線で実施して頂ければと思います。
- ✓ 日程が合わなくても動画として拝聴できるようにしてほしいです。